

平成 29 年度第 1 回一橋大学機関リポジトリ運営会議議事要旨

日 時：平成 29 年 6 月 21 日（水）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：附属図書館会議室

出席者：山部（統括責任者）、古澤、山下、白瀬、鈴木、千本、金子、鈴木 各委員

欠席者：友部、クォン 各委員

事務局：学術情報課（林、大田垣、山口、山本、東別府）

委員の紹介

議事に先立ち、平成 29 年度機関リポジトリ運営会議委員の紹介があった。

I. 前回議事要旨の確認

資料 1 に基づき、前回議事要旨の確認を行った。

II. 審議事項：

1. 平成 28 年度機関リポジトリ事業決算報告（案）

大田垣電子情報係長より、資料 2 に基づき説明があり、原案通り承認された。

2. 平成 29 年度機関リポジトリ事業計画（案）

大田垣電子情報係長より、資料 3 に基づき説明があり、次の通り質疑応答を行った。

- 「1.2.(4) 都留重人名誉教授寄贈資料の登録に向けた検討」の見出しについて、「検討」で正しいか。→見出しの「検討」は誤り。登録を行う計画である。
- 「1.2.(5) 「西川文庫」のインターネット公開に係る文化庁裁定申請」について、調査未了とあるが、公開されていないということか。また、継続して調査とあるが、調査が完了すれば今年度中に公開できるということか。→調査未了のため、公開されていない。今年度は補償額の調査までを行う計画である。その金額を次年度以降の予算に計上し、補償金の支払手続きが完了次第、公開できる。
- 「2.(1) 一橋大学オープンアクセス方針の策定」について、昨年度も「策定」が計画されていたと聞いているが、今年度も再度「策定」という意味か。→昨年度は方針案の作成を行った。今年度はその方針案を学内会議に諮り、学長裁定にて策定するという計画である。

審議の結果、原案通り承認された。

3. 平成 29 年度機関リポジトリ事業予算（案）

大田垣電子情報係長より、資料 4 に基づき説明があり、原案通り承認された。

4. 一橋大学オープンアクセス方針の策定について（案）

大田垣電子情報係長より、資料5に基づき説明があり、次の通り質疑応答を行った。

- この会議では何を審議するのか。→オープンアクセス方針および実施要領の策定手順である。
- 実施要領は10月に予定している教員向け説明会での意見・質問を反映させると考えてよいか。→よい。
- 実施要領は機関リポジトリ運営会議の中で策定したいとのことだが、その後、役員懇談会等から修正意見が出た場合は、再度機関リポジトリ運営会議を開催するのか。→メール等で審議をお願いすることになるかもしれない。
- 教員向け説明会の説明者は誰か。→事務職員を想定している。
- 教員向け説明会において、英語を第一言語とする教員への説明はどうするのか。→英文資料の用意を検討する。
- 教授会で報告してほしいとのことだが、質問があった場合は事務職員に引き継げばよいか。→よい。教授会開催までに教員向け説明会の開催日時を決めるので、合わせて案内していただきたい。

審議の結果、原案通り承認された。

5. 貴重資料のデジタルアーカイブ事業の中長期的計画について（案）

大田垣電子情報係長より、資料6に基づき説明があり、次の通り質疑応答を行った。

- 「(1)機関リポジトリ運営費で実施予定」の貴重資料は、予算欄が空欄となっている。予算はないということか。→その通りである。
- 「(3)その他の外部資金等に申請予定」の軍配組合関係資料は、過去に不採択となったと聞いている。理由はなにか。また、今後見込みはあるのか。→科研費（研究成果公開促進費）の審査ではニーズが弱く有用性が低いと判断された。今後は図書館振興財団等の民間の外部資金獲得なども検討している。

審議の結果、原案通り承認され、附属図書館研究開発室の教員ポストの欠員が埋まったら、改めて中長期的計画を検討することとした。

6. その他

特になし。

III. 報告事項：

1. 平成28年度一橋大学機関リポジトリ事業実施報告

大田垣電子情報係長より、資料7に基づき報告があった。

2. オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）への入会について

大田垣電子情報係長より、資料8に基づき報告があった。

3. 博士論文の本学機関リポジトリ（HERMES-IR）登録状況について

山口電子情報係員より、資料9に基づき報告があり、次の通り質疑応答を行った。

- 全文と要約を合わせて公表することはあるのか。→ない。要約の公表後、全文公表が可能となった場合は、全文への差し替えを行っている。
- 捕捉率の向上を目的とするなら、機関リポジトリ掲載用の電子データの提出を学位授与の条件にするなど、自動化する仕組みを作ればよいのではないか。→電子データの提出方法については各研究科が個別に定めている。また、研究協力者への配慮や出版などといった理由で全文を公表できない場合があり、全文を画一的に公表することは難しい。
- ウェブサイトに公開している要旨を要約に代えられないか。→大学が公表する要旨と学位を授与された者が公表する要約は別のものとされている。

4. 慶應義塾大学及び国文学研究資料館との共同研究の実施について

大田垣電子情報係長より、資料10に基づき報告があった。

5. 平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）「データベース」の実施報告

大田垣電子情報係長より、資料11に基づき報告があった。

6. 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）「データベース」の採択について

大田垣電子情報係長より、資料12に基づき報告があった。

7. 一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”の利用統計について

山口電子情報係員より、資料13に基づき報告があり、次の通り質疑応答を行った。

- 目録閲覧数の上昇の原因はなにか。→ロボットアクセスなどが考えられるが明確な原因は不明。
- ダウンロード数は集計できないのか。→本文閲覧数がダウンロード数にあたる。それにしても多く見えるが、原因は不明。

8. 世界リポジトリランキングにおける HERMES-IR の順位について

山口電子情報係員より、資料14に基づき報告があり、次の通り質疑応答を行った。

- 順位が下がっている理由はなにか。→機関リポジトリ全体の数が増加していること、本学以外の機関リポジトリの充実により、相対的に下がったのではないかと推測している。

9. HERMES-IR（一橋大学機関リポジトリ）の英語対応について

山本電子情報係員より、資料15に基づき報告があった。

10. その他
特になし。

IV. その他：
特になし。

(以上)